

March 2010
©Kyoto City



防災分野への女性の参画

17,881人

京都市男女共同参画センター ウイングス京都からのお知らせ

図書情報室のご案内

ウイングス京都図書情報室は、男女共同参画社会の実現を応援する図書室で、どなたでも気軽に御利用いただけます。

図書、雑誌、ビデオ、DVD、コミック、行政資料、ミニコミなどの資料の閲覧、貸出、リファレンスサービスなど、あなたの情報力をサポートします。絵本、児童書コーナーもあります。

*本を借りるには、住所・氏名を確認できるもの（運転免許証・健康保険証など）をカウンターにお持ちください。
利用者カードを発行します。（京都市内に在住、在勤、在学の方）

- 利用時間 平日 10:30～20:30 日・祝日 10:30～17:00
(水曜日、年末年始、特別整理期間は休室)
- お問い合わせ 図書情報室 075-212-0606

相談室のご案内

- 開室時間 平日:11:00～18:30 火曜日:11:00～20:00 *受付は閉室の30分前まで
- 休室日 水曜日・日曜日・祝日・年末年始
- ◆女性のさまざまな悩みに関する電話相談・面接相談(予約制) 専用電話 075-212-7830
- ◆女性への暴力相談(予約制)
- ◆法律相談 第1・第3 金曜日 13:30～16:00(予約制)(祝日の場合 第2・第4金曜日)
- ◆働く女性のこころの健康相談 第2・第4 火曜日 17:30～20:30(予約制)
- ◆男性のための相談 第1・第4 火曜日 17:30～20:30(予約制)

男女共同参画に関する苦情等処理制度

「性別による人権侵害」「男女共同参画の推進に関する京都市の施策」についての苦情・相談を受け付けています。

- 専用電話 075-222-8124

京都市文化市民局
共同参画社会推進部男女共同参画推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
Tel.075-222-3091 Fax.075-222-3223
http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0_1.html

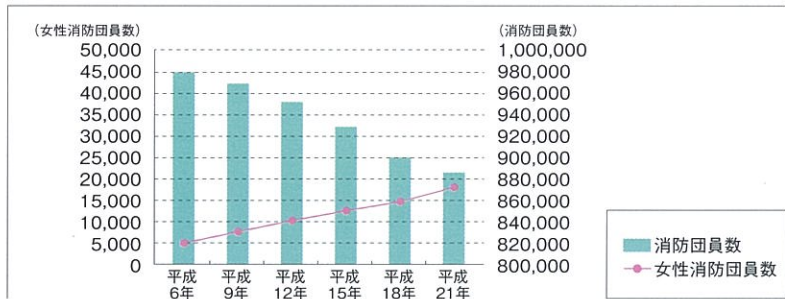
財団法人京都市女性協会 —— 企画・編集
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262
Tel.075-212-7490 Fax.075-212-7460
<http://wings-kyoto.jp>



Female fire fighter



女性消防団員数の推移 平成21年度消防白書



防災分野への女性の参画

京都市では、あらゆる分野で男女共同参画の推進のための施策を行っています。

その中のひとつに、「防災分野での男女共同参画の推進」があり、防災計画の策定や地域防災への女性の参画を進めています。

国においても、女性消防団員の入団促進等の取組を、地方公共団体に対して求めています。平成2年では全国で1,923人であった女性消防団員は、平成21年には17,881人と着実に増加しており、少しずつ、防災分野への女性の参画は進んできています。

ではなぜ今、防災の分野に女性の参画が求められるのでしょうか？

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震といった過去の災害発生時の避難所生活では、様々な問題が指摘されました。

例えば、男性は早い段階で職場へ復帰する一方で、避難所というプライバシーのない、

不便で非日常的な生活環境の下での家事・育児・介護などの家庭的責任に対する負担は、女性に集中する傾向がありました。

授乳や女性専用の着替えの場所がないこと、トイレが暗いところにあつたり、鍵がかからなかつたりすること、男性の衣類と一緒に女性の下着も人目につくところに干すしかないこと、女性特有の日用品の備蓄が足りていないこと、といった現実もありました。また、こういったことを相談したくても、避難所の責任者は男性ばかりで相談しにくい、支援する側にも女性の担当者がいないといった状況も明らかになり、男女の違いに配慮した施設の設置が避難生活を送るうえで大きな課題となりました。

た。被災によるストレスが高まり、それが女性への暴力や子どもへの虐待につながる危険性があることも指摘されています。

このように、避難所生活というプライバシーのない非日常的な状況では、男女のニーズの違いに対応したり、女性や子どもなどの安全を確保することが重要です。そのためには、避難所の管理者や支援者、更には、常日頃から地域の消防団や自主防災組織に女性が加わる必要があります。

一方、災害直後の安否確認や倒壊家屋からの救出、その後の長期にわたる避難所生活には、ご近所付き合いといった地域との交流はなくてはならないものであり、男性も、普段から地域コミュニティに目を向ける必要があります。

男性も女性も防災に対する意識を高め、緊急な災害時においても、責任ある立場で共同して避難所生活や災害復興にかかわり、対応できるよう、男女がともに支えあう地域づくりについて考えてみませんか？

